

平成21年7月27日

各位

上場会社名 東燃ゼネラル石油株式会社
 代表者 代表取締役社長 鈴木一夫
 (コード番号 5012)
 問合せ先責任者 エクソンモービル有限会社 広報渉外副部長 甲斐 航介
 (TEL 03-6713-4400)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成21年2月13日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

(金額の単位:百万円)

平成21年12月期第2四半期連結累計期間連結業績予想数値の修正(平成21年1月1日～平成21年6月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	1,150,000	6,000	6,000	4,000	7.08
今回発表予想(B)	964,645	△10,861	△10,681	△6,423	△11.37
増減額(B-A)	△185,354	△16,861	△16,681	△10,423	
増減率(%)	△16.1	—	—	—	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成20年12月期第2四半期)	1,692,649	△2,321	3,783	5,851	10.36

修正の理由

平成21年12月期第2四半期累計期間の連結営業利益は、前回予想時より169億円減少し、109億円の赤字となる見通しです。

今回の下方修正の主な要因としては、原油価格の急激な上昇に伴うコスト上昇と、当社が採用する会計上の原油調達コスト認識方法があげられます。3月下旬以降、原油価格は上昇に転じ、6月のFOBスポット平均価格は1バレルあたり69.41ドルと、当社が前回予想に用いた1月末時点に比べて25ドル上昇しました。

当社のコスト認識方法は、業界他社で一般的に採用されている方法(到着ベース)と異なり、会計上の原油調達コストを原油の積荷時点で認識するため、4月～6月の原油価格の上昇がそのまま4月～6月の業績に反映されました。

このコスト認識時点の違いによる会計上のマイナスの影響は、特に4月～6月の業績に顕著に見られ、到着ベースの認識方法を採用した場合と比べ、約330億円にのぼったと推測されます。

尚、上記営業損失109億円には、約72億円の在庫関連利益が含まれております。

1株あたり中間期19円、年間38円の本年2月時点の配当予想に変更はありません。

平成21年12月期の通期業績予想に関しては、第2四半期決算発表(8月14日予定)までに再度検討いたします。

参考:

平成21年12月期1～3月営業利益 131億円

平成21年12月期4～6月営業利益予想 △240億円

平成21年12月期第2四半期累計営業利益予想 △109億円

以上